

「チームとしての学校」と「学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制」の関係(イメージ)

「チーム学校」の理念

- 必要な教職員や専門能力スタッフについては、確実に配置
- 多様な専門人材が責任を伴って学校に参画し、教員はより教育指導や生徒指導に注力
- 学校のマネジメントが組織的に行われる体制
- 「チームとしての学校」と地域との連携を強化



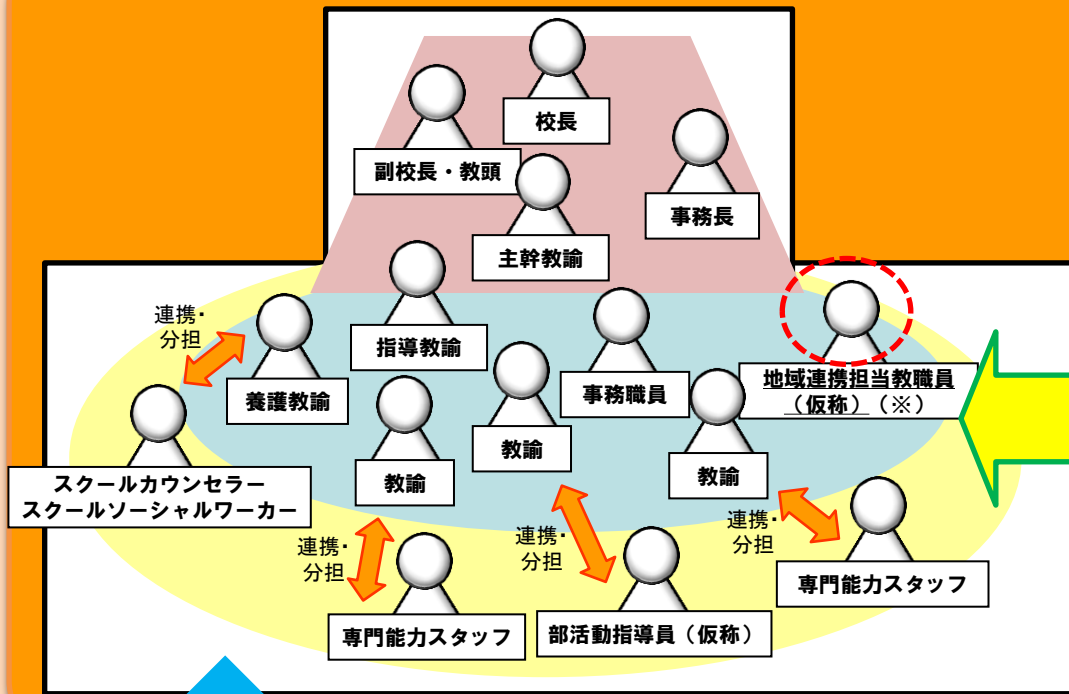
「学校と地域の連携・協働」の理念

- 学校と地域の「パートナーとしての連携・協働関係」への発展
- ・地域とともにある学校への転換
- ・子供も大人も学び合い育ち合う教育体制の構築
- ・学校を核とした地域づくりの推進



- ☑ 学校の教育力・組織力の向上
- ☑ 社会総掛かりでの教育の実現
- ☑ 子供を軸に人々が参画・協働する社会の創造

チームとしての学校



(※)①学校側の総合窓口、②学校運営協議会の運営業務等の調整、③地域住民等による学校支援等の地域連携の企画・調整等を担当。法令上の位置付けについては、今後検討。

「チームとしての学校」を支える観点

学校運営協議会

学校運営に関して協議する機関

1. 学校運営の基本方針の承認
2. 学校運営に関する意見
3. 教職員の任用に関する意見
4. 地域住民等の連携・協力の促進

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度を導入する学校)

地域社会

- ★地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、「社会に開かれた教育課程」を実現
- ★地域住民による学校支援活動、放課後の教育活動、地域文化活動等の実施
- ★学校を核として、地域の大人と子供が学び合い、地域コミュニティを活性化



連携・協働

- ★地域人材がそれぞれ相互に構成員を務めるなど、それぞれの知見、経験、課題等の共有により有機的・効果的な連携を促進

連携・協働

地域住民や保護者等が学校運営に参画

地域コーディネーター

- ※地域側の総合窓口
- ※学校支援、放課後の教育活動等の地域活動の調整やボランティアの確保
- ※地域学校協働本部等に所属

地域学校協働本部(仮称)

地域住民、団体等により緩やかなネットワークを構築

- ※必須3要素
- コーディネート機能
- 多様な活動(より多くの地域住民の参画)
- 継続的な活動

地域学校協働活動

☆「チームとしての学校」の範囲(中教審答申案より)

「チームとしての学校」において、専門能力スタッフ等の位置付けや役割分担を検討するに当たっては、学校は、校長の監督の下、組織として責任ある教育を提供することが必要であり、「チームとしての学校」に含まれる範囲は、少なくとも校務分掌上、職務内容や権限等を明確に位置付けることができるなど、校長の指揮監督の下、責任を持って教育活動に関わる者とするべきである。